

## 令和3年度 学校評価実施報告書

学校名（太秦中学校）

教育目標	
<p>「自ら考え行動し、協働できる生徒の育成」</p> <p>～つながりを意識した学校～</p>	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、本校の教育目標である「協働をどう進めていくか」は、大変難しい課題であった。自分が成し遂げたいことを実現するには、他者とつながることで、一人では気づかなかつた奥深さや広がりを持ち、より豊かになる。そのことを実感するには、「協働」は避けて通れないからである。カリキュラム・マネジメントの研究を進める中で、グループ活動などを大切にしてきただけに、コロナでそれができないことは大変苦しかった。しかし、G I G A部会を中心に端末の活用について研鑽を積み、それを教職員に広げていくなど、今までにない新たな取組を創り出すことができた。例えばロイロノートなどで生徒同士の意見交流をし、またそれを発表することで協働を進めていったこと。また、体育大会では学年間のつながりを重視したり、合唱コンクールが実施できないため、その代替取組を学年毎に行ったことがあげられる。今年度の成果を元に、来年度も「協働」を実現する取組を進めたい。</li> <li>・生徒や保護者のアンケートを見ると、やはりコロナ禍の中、協働やつながりを実感できる学校づくりにはあと一歩だったと感じる。しかし、生徒とともに協働を目指してきたことで、新たな取組や取組を実施する工夫を生み出すことができた。生徒の豊かな発想には驚かされる場面もあり、今後も生徒とともに歩む姿勢は大切にしたいと考えている。</li> <li>・また、協働の基盤となる言語能力の育成を目指し、研究指定を受けてこの数年間カリキュラム・マネジメントについて研究・実践を進めてきた。コロナ禍の中での授業改善や総合的な学習の時間を軸においた取組の推進など、今後もその成果を活かし、学校全体で言語能力の向上を目指して努力したい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での教職員の方々の取組、一生懸命さが伝わってきます。</li> <li>・協働やつながりを実感できる学校づくりを目指し、生徒と共に歩む姿勢を大切にする中で、生徒一人一人が発信する声をどれだけ受け止められるか、が大切だと思う。言語能力の向上だけでなく、互いが寄り添うことで得られるもの、温かいぬくもりを大切にしてほしい。</li> <li>・生徒一人一人が互いに個性を認め合って、みんなが活躍できる集団づくりを増やしてもいいのかなあとと思いました。生徒の状況を敏感に感じ取って、親身な指導や支援をお願いしたい。</li> </ul>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	9月30日	学校運営協議会委員
最終評価	2月28日	学校運営協議会委員

## (1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

### 重点目標

カリキュラム・マネジメントを通して実践する協働の基盤となる言語能力の育成。

### 具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの3つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する。

#### ① 教科横断的な視点

- ・全ての教育活動で言語能力を意識した取組を意識。
- ・内容（教材）、思考ツール、話し合いの手法を関連単元配列表に記入。他教科との関連を交流した教科横断的な活用。

#### 【授業改善に向けて】

- ・新学習指導要領に対応した授業と評価の実践。
- ・発問の工夫など、生徒が思考を働かせる工夫。
- ・ペア・グループ活動のあとに、一人で思考する時間を設定。

#### ②PDCA サイクルの確立

- ・各教科の生徒授業アンケートの実施及び結果の分析。
- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う。
- ・振り返りシートの見直し、改善（「自己変容」「他者からの学び」ができるもの、主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるものへ）。
- ・スケジュール帳とキャリア・パスポートの活用。

#### ③人的物的資源の活用

- ・GIGA 端末の授業での効果的活用。
- ・より深い小中連携の実践（小中主任会の複数回実施、合同研修会、作品展、美化活動、キャリア・パスポートの活用、ジョイントプログラムや体力テストの結果共有）。
- ・ゲストティーチャーによる授業の実施。

### （取組結果を検証する）各種指標

- ・ジョイントプロ・確プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果
- ・家庭学習の点検結果
- ・生徒・保護者アンケートの結果
  - ①自主的に家庭学習が出来ましたか
  - ②自分の思っていることを人に伝えることができましたか
  - ③友人と仲良く協力して活動できましたか
- ・教職員アンケートの結果
  - ①「協働」を意識した授業が行えましたか
  - ②自ら学ぶ姿勢の育成ができましたか

## 中間評価

### 各種指標結果

・生徒・保護者アンケートの結果	令和3年度	令和2年度
生 ①自主的に家庭学習ができましたか。	26.1%	38.0%
保	29.0%	24.1%
生 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。	52.3%	61.3%

自己評価	保生	③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	36.9% ← 31.2%			
	保生	③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	52.3% ← 53.4%			
・教職員アンケートの結果						
<p>「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 97.0% ← 94.8%</p> <p>生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 97.0% ← 94.9%</p>						
・ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果						
<p>1年生ジョイントプログラムは、国語・数学ともに全市平均を上回る結果だった。</p> <p>2年生学習確認プログラムは、国語・英語は全市平均を上回ったが、社会・数学・理科は全市平均より低かった。</p> <p>3年生学習確認プログラムは、5教科すべてで全市平均の正答率を上回った。</p>						
学校関係者評価	分析（成果と課題）					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は小学校の取組の成果があり、基本的な学力をつけて入学している。しかし、低学力の生徒の層が厚いことが課題である。</li> <li>2年生は入学当初から全体的に学力が低いことが課題であり、提出物が出せない生徒が非常に多い。</li> <li>3年生は、生活面も含めて全てのことをきちんと取り組むことの大切さを指導してきた成果もあり、着実に学力を伸ばしてきている。</li> </ul>					
分析を踏まえた取組の改善						
<p>1年生 特に低学力層を対象にした個別の指導などを丁寧に行っていきたい。</p> <p>2年生 学習に対する姿勢やテストに向けての取組など、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。</p> <p>3年生 進路実現に向けてさらに学力をつけていけるように取り組んでいきたい。</p> <p>全校生徒 「自主的に家庭学習ができましたか」というアンケート結果をふまえ、再度学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるように取り組んでいく。</p>						
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標						
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。</li> <li>生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>①自主的に家庭学習ができましたか。</li> <li>②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。</li> <li>③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。</li> </ul> </li> <li>教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。</li> <li>②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。</li> </ul> </li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間の積み重ねとして、3年生の学力が高いことは評価できます。</li> <li>充実した「学力プラン」、ご苦労さまです。目途としては全市平均と比較してもいいと思いますが、その上を目指す目標を設定されても良いと思います。</li> <li>しっかりしたカリキュラム等を通して実践されている様子が読み取れます。私の職場でもキャリア・パスポートを活用しています。</li> <li>個々の学力に差異が認められる現状は将来における選択肢にも影響します。どうすれば基礎学力が上がるかを検討していきましょう。</li> </ul>					

## 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

#### ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果

1年生は全教科において全市の平均正答率を上回る結果となり、入学当初から学力を順調に伸ばしつつある。

2年生は数学と理科は全市の正答率よりも低い結果となったが、国語・社会・英語は全市平均を上回った。

3年生は5教科とも全市の正答率を上回る結果となった。特に国語科においては、90%以上の高い正答率の生徒が非常に多かった。

#### ・生徒・保護者アンケートの結果

生 ①自主的に家庭学習ができましたか。

令和3年度 令和2年度

27. 9% ← 38. 0%

保

23. 1% ← 24. 1%

生 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。

54. 2% ← 61. 3%

保

29. 2% ← 31. 2%

生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。

53. 2% ← 53. 4%

保

23. 1% ← 27. 1%

#### ・教職員アンケートの結果

「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。

89. 7% ← 94. 8%

生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。

93. 1% ← 94. 9%

## 自己評価

### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・学力については、コロナ禍でグループ学習などの協働的な学習がかなり制限された中で、GIGA 端末の活用など教職員が工夫しながら取り組んできた成果が出たと思われる。
- ・どの教科においても授業や学習の振り返りをまとめた文で書かせたり、言わせたりする言語活動を積極的に行ってていることが、教科自体の取組に加えて言語能力の育成につながり、どの学年も言語能力の育成の軸となる国語科や英語科の正答率の高さにつながっていると分析している。

#### 【次年度の課題】

- ・今年度は「とりあえず始めてみよう」ということで取り組んだ GIGA 端末の活用をさらに効果的なものになるように精選していくことが求められる。
- ・授業においては、今年度に引き続き、どの教科においても言語能力の育成を軸としながら、学力を向上させていきたい。上位層の力をさらに伸ばし、学力が低い生徒を手厚くフォローすることが課題である。

### 分析を踏まえた取組の改善

- ・アンケートの結果からも家庭学習はできていない。家庭学習の課題として提示したものを学校で必死になって取り組んでいる姿をよく見かけることが実態としてあり、「塾で忙しい」「塾の課題が多い」という生徒の声もよく聞く。来年度以降は GIGA 端末を持ち帰っての家庭学習も考慮に入れながら、学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるように取り組んでいきたい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語能力」は社会に出てからもとても大切なことなので、良い取組だと思う。引き続き頑張って下さい。</li> <li>・中学という多感な時期に、あふれる情報の中で生徒たちは生きている。まずはしっかりと自分に向き合い、考え、焦らずにできることから一つずつ取り組んでほしい。</li> <li>・今の自分をよく知ることが大切だと思う。</li> </ul>

## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す。
	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が関わる周りの人たちとの<u>つながりを意識し</u>、<u>自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進</u>。</li> <li>・「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の<u>受容的・共感的な人間関係の育成・深化</u>。</li> <li>・「豊かな心」の育成の柱となる道徳教育の充実。</li> <li>・学校経営の柱である「受容的・共感的な人間関係の育成」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進。</li> <li>・道徳的実践力を育むため、道徳教育との柱となる道徳の授業と特活・行事との連携。</li> <li>・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、<u>生徒会活動の一層の活性化</u>。</li> <li>・道徳教育の在り方について、「それ自体が学習経験となる『評価』」を目指した研究の推進。</li> <li>・若手実践研修等を通じ、教職員のスキルアップを図り、よりよい教育相談の実践。</li> <li>・教育活動全体を通した、<u>人権尊重の精神の育成</u>。</li> <li>・生徒たちが多文化共生社会の担い手となるために、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分を大切にしていますか。</li> <li>②他人を大切にしていますか。</li> <li>③一人一人が大切にされている学級ですか。</li> <li>④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか</li> <li>⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか</li> </ul> </li> <li>・教育相談結果</li> </ul>

## 中間評価

各種指標結果	令和3年度 令和2年度
・生徒・保護者アンケート	56.0% ← 68.1%
	58.5% ← 51.7%
生 ①自分を大切にしていますか。	75.1% ← 82.8%
	保
生 ②他人を大切にしていますか。	

保	5 7 . 9 % ← 5 4 . 6 %
生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	6 1 . 2 % ← 6 2 . 9 %
保	3 2 . 8 % ← 4 9 . 5 %
生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	6 8 . 0 % ← 6 9 . 4 %
保	6 5 . 8 % ← 5 1 . 2 %
生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	7 6 . 3 % ← 7 6 . 0 %
保	5 8 . 1 % ← 5 5 . 8 %
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動が制限され、自分が活躍できる場や他者からの評価を受ける機会が減ったため、自己肯定感を高める機会が減少し、「自分を大切にしている」、「他者を大切にしている」という感覚をもつ生徒が減ったと考えられる。</li> <li>一方で保護者目線では、「自分を大切にしている」、「他人を大切にしている」生徒は増えている。教職員の方も例年と大きく変化している感覚はなく、保護者や教職員からの評価を生徒へ積極的に伝えていくことが必要だと考える。</li> <li>保護者からの「一人一人が大切にされている学級ですか」の項目で減っている原因としては、コロナのために家庭訪問や休日参観を中止するなど、学校での生徒の様子を知る機会を制限されたためと考えられる。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動が制限された中でも生徒の自己肯定感を高める方法はある。コロナ禍だからこそ、日々の生活で今まで以上に生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にしたい。</li> <li>また授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やすなど、それぞれの教員が意識して教育活動に当たりたいと考えている。</li> <li>コロナ禍で、保護者に生徒の様子を参観してもらうことが難しい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分を大切にしていますか。</li> <li>②他人を大切にしていますか。</li> <li>③一人一人が大切にされている学級ですか。</li> <li>④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか</li> <li>⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか</li> </ul> </li> </ul>
	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの「③一人一人が大切にされている学級ですか」が下がっていることが気に掛かります。生徒も少し下がっています。</li> <li>各種指標結果から生徒は令和2年から3年にかけて減少、保護者・教職員は増加。生徒の自覚は各項目とも同じ傾向が見られます。人権教育の太秦中学校、頑張ってください。</li> <li>生徒の自主性を大切に取り組まれている様子がよくわかります。</li> <li>社会の一員として自分は必要な存在だという自己肯定感を、中学生の時期に持つことは重要です。一人一人の個性を尊重する教育現場を作り上げてください。</li> </ul>

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・生徒・保護者アンケート	令和3年度 令和2年度
生 ①自分を大切にしていますか。	59. 6% ← 68. 1%
保	51. 2% ← 51. 7%
生 ②他人を大切にしていますか。	77. 9% ← 82. 8%
保	48. 1% ← 54. 6%
生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	66. 3% ← 62. 9%
保	31. 9% ← 49. 5%
生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	69. 5% ← 69. 4%
保	58. 8% ← 51. 2%
生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	73. 7% ← 76. 0%
保	52. 1% ← 55. 8%
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のアンケートの⑤以外は前回のアンケートよりも, +1.5%~3.5%改善している。2学期以降の体育大会や各学年・学級の取組の成果だと考えられる。特に体育大会では, 先輩・後輩のつながりを実感できた生徒の感想が多く聞かれ, 全校生徒が一堂に会し, 互いが関わり合うことの必要性を再認識できた。</li> <li>生徒のアンケートの⑤は前回よりも-2.6%である。コロナ禍の中, 家族もつながりを実感できる機会を持つことが難しい現状があることを示していると思われる。部活動停止や行事中止の中で, 授業以外で生徒と関わり合う場が持てず, 教職員も生徒との多様な関係を築くことが難しかったことも関係していると考える。</li> <li>保護者のアンケートではすべての項目が前回よりも下がっている。授業や行事の参観がほとんどなく, 学校での子どもの様子を知る機会が少ないと, 生徒が大切にされたり, 周りとつながっている感覚が実感として持てないことが大きな原因と考えられる。</li> </ul>
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対して, 日々の多様な声掛けを大切にすることで, 先生とのつながりを強め, また, 学級通信や家庭連絡で生徒を褒めることで生徒の自尊感情を高めたり, 生徒同士の関係づくりを進める中で共感的人間関係を育んでいく。</li> <li>コロナ関係の仕事が増えるなど, 職員が多忙になっているのが実情だが, 学級通信や家庭連絡などで日々の生徒の様子を保護者に伝える機会を大切にしていく。そのことで生徒を支える学校と保護者の関係を作り, 学校の姿勢に対して保護者が安心することで, 生徒も安心できる環境づくりを進めたい。</li> </ul>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家族・先生・大人とのつながり」の項目が、前年より増えているのが嬉しい。一方、「一人一人が大切にされている」の項目での、生徒と保護者の違いに驚きを感じる。</li> <li>共感するということは、どちらかが優位に立った関係の中では生まれない。同じ目線の高さで互いを見ることで初めて成り立つ。中学生の偏見のない柔軟な心に期待をしたい。</li> <li>友達との交流を大事にしてほしい。</li> <li>道徳教育の充実が必要だと思う。コロナ禍の中、感染症や命の大切さに関する心の指導、命を守る取組などの推進が必要だと思う。</li> </ul>

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

自らの健康について考え、生涯にわたって自らの健康をコントロールし、「自らを律する力」「自らを改善していく力」を育成する。

#### 具体的な取組

- ・食事、運動、休養・睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得。
- ・飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用。
- ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実。
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。
- ・交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実。
- ・地震・台風・豪雨・火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、主体的に行動する力を育てる防災教育の推進。
- ・感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を実践できる保健教育の充実。

#### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒・保護者アンケート
  - ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。
  - ②規則正しい生活ができますか。
  - ③自らの健康増進ができますか。
- ・教職員アンケート
  - ① 健康増進に向けた指導をできますか。

### 中間評価

#### 各種指標結果

・生徒・保護者アンケート	令和3年度	令和2年度
生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	89.8%	90.1%
保	65.6%	64.1%
生 ②規則正しい生活ができますか。	33.6%	48.3%
保	28.4%	28.2%
生 ③自らの健康増進ができますか。	40.9%	51.1%
保	29.5%	27.7%
・教職員アンケート		
①健康増進に向けた指導をできますか。	87.9%	87.0%

#### 自己評価

##### 分析 (成果と課題)

- ・防災等の危険性の理解は、昨年度同様高率を維持している。昨今は豪雨などの災害も頻発しており、関心は一層高くなっていると思われる。
- ・規則正しい生活や健康増進については大きく下がっている。保護者の回答にさほど変化がないことからあまり実態が変化していない可能性もあるが、コロナ流行以前の回答よりも数値が低い。「自分を大切にしていますか」の回答も同様に低下傾向であることから、自己肯定感の低さが健康を保持増進する意欲の低下につながっている可能性も考えられる。

##### 分析を踏まえた取組の改善

	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間を大切に、学びを定着させていく。</li> <li>コロナ禍での新しい生活様式についての指導と合わせて、望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。その際、保健委員会による発信などの全体指導と、生活習慣が乱れがちな生徒への個別指導をあわせて行う。また、生活改善に対する意欲が高まるよう、自己肯定感を高める関わりを意識して行う。</li> </ul>
<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。</li> <li>②規則正しい生活ができますか。</li> <li>③自らの健康増進ができますか。</li> </ul> </li> <li>教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①健康増進に向けた指導をできますか。</li> </ul> </li> </ul>

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で、スポーツや体力を養う機会が制限されていることは残念です。</li> <li>この分野は家庭との協力が不可欠。推進をお願いします。</li> <li>喫煙、薬物も低年齢化しており、簡単にネット等で手に入る昨今、危険度をしっかり学ぶことが大切ですね。</li> <li>コロナ禍で、今まで以上に基本的生活習慣が損なわれた生徒が多いと思います。今一度原点に戻って、健康であることの意義を見つめ直すいい機会かも知れないと思います。</li> </ul>
-----------------------------	---

## 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table> <tbody> <tr> <td>・生徒・保護者アンケート</td><td style="text-align: right;">令和3年度 令和2年度</td></tr> <tr> <td>生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。</td><td style="text-align: right;">91.6% ← 90.1%</td></tr> <tr> <td>保</td><td style="text-align: right;">62.7% ← 64.1%</td></tr> <tr> <td>生 ②規則正しい生活ができますか。</td><td style="text-align: right;">38.2% ← 48.3%</td></tr> <tr> <td>保</td><td style="text-align: right;">21.5% ← 28.2%</td></tr> <tr> <td>生 ③自らの健康増進ができますか。</td><td style="text-align: right;">42.6% ← 51.1%</td></tr> <tr> <td>保</td><td style="text-align: right;">18.5% ← 27.7%</td></tr> <tr> <td>・教職員アンケート</td><td></td></tr> <tr> <td>①健康増進に向けた指導をできますか。</td><td style="text-align: right;">86.3% ← 87.0%</td></tr> </tbody> </table>	・生徒・保護者アンケート	令和3年度 令和2年度	生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	91.6% ← 90.1%	保	62.7% ← 64.1%	生 ②規則正しい生活ができますか。	38.2% ← 48.3%	保	21.5% ← 28.2%	生 ③自らの健康増進ができますか。	42.6% ← 51.1%	保	18.5% ← 27.7%	・教職員アンケート		①健康増進に向けた指導をできますか。	86.3% ← 87.0%
・生徒・保護者アンケート	令和3年度 令和2年度																		
生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	91.6% ← 90.1%																		
保	62.7% ← 64.1%																		
生 ②規則正しい生活ができますか。	38.2% ← 48.3%																		
保	21.5% ← 28.2%																		
生 ③自らの健康増進ができますか。	42.6% ← 51.1%																		
保	18.5% ← 27.7%																		
・教職員アンケート																			
①健康増進に向けた指導をできますか。	86.3% ← 87.0%																		
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災や防煙・薬乱防止に関する学びは例年通り高率で定着しているが、生活習慣については昨年度よりもよくない結果となった。</li> <li>学校全体の欠席状況に大きな変化はないが、内科的・精神的主訴による保健室来室数は多くなっており、生活習慣の乱れと心身の不調が大きくかかわっていることが考えられる。生活習慣の乱れの一因として、コロナ禍で部活動などの放課後の活動が不規則になっていることもあげられる。望ましい生活習慣に向けた指導は引き続き取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会による生活習慣アンケートの集計結果の開示は、生徒も興味を持って見ていたた</li> </ul>																		

	<p>め、現状把握と、自らの生活に意識を向けさせるため、今後も継続して取り組みたい。</p> <p>・一方、新型コロナウイルス感染症の影響で生徒の活動にも制限がかかり、保健委員会を介した取り組みなども難しくなっている。気にかかる生徒への個別の声かけやほけんだよりによる啓発など、そのときどきで可能な方法で継続して発信し続けることが必要であると考える。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この時期、思い切り運動もできず、友達との交流にも制限があつたりと、本当に心が痛む。</li> <li>・コロナ禍の中でも若い命は成長していく。しっかりと食べて、よく寝る、当たり前のこと大切にしてほしい。</li> <li>・自分なりの運動をすることが大切だと思う。</li> <li>・体力や運動能力はかなり落ちているのでないか。部活動もできない中なので、取組の質的な向上が必要だと思う。</li> <li>・食育や生に関する取組も必要だと思う。</li> </ul>

#### (4) 学校独自の取組

	<p><b>小中9年間の教育目標</b></p> <p>「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」</p>
	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中校長会、小中主任会のさらなる推進。</li> <li>・<u>小中合同研究授業、小中合同研修会の充実。</u></li> <li>・相互の行事等への積極的参加。</li> <li>・生徒会と児童会のさらなる連携。</li> <li>・小学生と中学生が、共に学びともに活動する場の創造。</li> <li>・小学生の授業体験と部活体験への参加。</li> <li>・小中PTAの合同行事を通した連携。</li> </ul>
	<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート</li> </ul> <p>① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</p>

#### 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <table> <tr> <td>・教職員アンケート</td><td>令和3年度</td><td>令和2年度</td></tr> <tr> <td>①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</td><td>78.8%</td><td>56.5%</td></tr> </table>	・教職員アンケート	令和3年度	令和2年度	①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	78.8%	56.5%
・教職員アンケート	令和3年度	令和2年度					
①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	78.8%	56.5%					
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季小中合同研修では、性に関する研修や事務に関する研修を、リモートを通して受けることができた。また、教科ごとの分散会を実施し、今後の授業づくりに生きる研修を深めることができた。しかし、研修時間が限られていたり、コロナ禍でのリモート研修を行ったため、納得いくまでの交流ができないままの教科もあり、課題が残る。今後、もう一度教科ごとに研修を設定して行う予定である。</li> <li>・『9年間で子どもを育てる』という目的での小中連携を進めることができたのは、大きな成果だと考える。</li> <li>・昨年度と同様に、相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場、</li> </ul>						

学校 関 係 者 評 価	小中 P T A の合同行事などを、今までの形式で実施することは困難な状況である。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生がともに学び、活動する場を、従来の枠にとらわれず、映像やリモート等を活用して新たに創造していく。特に11月に予定されているオープンスクールでは、少しでも「中学校が楽しみになる」内容になるように工夫して取り組んでいきたい。</li> <li>・小中で連携し、共通した学校評価の項目を設定する。</li> </ul>
	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート</li> </ul> <p>①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</p>

## 最終評価

自己 評 価	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート</li> </ul>
	令和3年度 令和2年度
	①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 65.5% ← 56.5%
	<b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
学校 関 係 者 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季小中合同研修では、教科ごとの分散会を実施し、今後の授業づくりに生きる研修を行うことができた。それをさらに深めるために、2・3学期には教科ごと交流会（コロナ禍での授業の工夫レポートの交換、タブレットを使った実践例の交流等）を行った。その後もコロナ禍であったため十分な研修を行えなかつたが、コロナ禍であってもリモート会議やレポート交換などを行うことで交流できることが確認できた。</li> <li>・毎年行ってきた小中交流授業はコロナ禍のため中止した。しかし、その代わりとして中学校を紹介する動画を教員と生徒会が協力して作成した。</li> <li>・各学校の分掌の長による小中主任会を行うことで、今年度の反省や来年度の課題について、また小中の生徒情報交換などを行うことができた。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で実施できる形態が限られる中で、どうにか小中連携の機会を持つことができた。その中で、より多様な繋がりを創り出す上で、ICT活用が一つのカギになっていることが確認できた。来年度はGIGA部会とも連携して、さらに有意義な交流ができるよう努めようと考えている。</li> </ul>
	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「9年間で子どもを育てる」そのおおらかな視点で小中の連携を進めてほしい。</li> <li>・夏季合同研修の成果に期待したい。</li> <li>・他校に負けない取組を進めてほしい。</li> <li>・コロナ禍の今だからこそ、小中一貫した取組を充実させることができるように必要だと思う。</li> </ul>

## (5) 教職員の働き方改革について

### 重点目標

教職員の超過勤務時間の縮減を目指す

### 具体的な取組

- ・学校運営の組織化。
- ・各部の長による部の統括。
- ・個々の教職員のレベルアップ。
- ・管理職による面談。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員アンケート

①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。

②気持ちよく働けていますか。

- ・出退勤システムによる超勤時間の様子

- ・ストレスチェック

## 中間評価

### 各種指標結果

- |           |       |       |
|-----------|-------|-------|
| ・教職員アンケート | 令和3年度 | 令和2年度 |
|-----------|-------|-------|

①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。

57.6% ← 53.8%

②気持ちよく働けていますか。

78.8% ← 79.5%

自己評価

### 分析 (成果と課題)

- ・コロナ禍の中、退勤時間を意識することが超過勤務時間削減につながった。しかし、仕事の量が減ったわけではなく、むしろコロナ禍で増えている部分もある。家庭への仕事の持ち帰りによって学校での超過勤務時間が減っている側面も見受けられる。
- ・「気持ちよく働けていますか」の問い合わせに対して80%近くが肯定的に答えていているように、教職員の協働意識は高く、組織で動くことを今後も大切にしたい。一方で、残りの20%余りの教職員がそうではない原因にも目を向けることが必要である。
- ・採点ソフトを全市に先駆けて導入し、採点、評価等に関わる時間短縮ができた。

### 分析を踏まえた取組の改善

- ・仕事の偏りに目を向け、学年や分掌での役割分担等を見直していく。
- ・仕事量を考えると、部活動についての整理が必要である。
- ・若手への適切な指示が出せる中堅の育成、そして、そのことを通した若手の成長を図っていく。

### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員アンケート

①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。

②気持ちよく働けていますか。

- ・出退勤システムによる超勤時間の様子

- ・ストレスチェック

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員＝ブラックからの脱却は大変だと思います。世間や文科省の「日本型教育」が大きなご苦労になっているのではないでしょうか。</li> <li>子どもたちが休みでも、先生方はたくさんの仕事があり、家庭に持ち帰ってまでは大変だと思います。</li> <li>誰のための改革であるのか、何のためにするのか、を改めて考えたいと思います。働き方改革が子どもたちにどんな影響を与えたか、教育現場はいつでも子どもたちが主役でなければならぬと思います。</li> </ul>

## 最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート</li> </ul>								
	<table> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。</td> <td>58.7%</td> <td>53.8%</td> </tr> <tr> <td>②気持ちよく働けていますか。</td> <td>65.6%</td> <td>79.5%</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和2年度	①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。	58.7%	53.8%	②気持ちよく働けていますか。	65.6%
	令和3年度	令和2年度							
①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。	58.7%	53.8%							
②気持ちよく働けていますか。	65.6%	79.5%							
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>退勤時間を意識して仕事をすることで超過勤務時間がやや削減した。しかし、コロナ対応の業務が増え、退勤はしているが家庭に持ち帰って仕事をせざるを得ない状況が生まれている面もある。</li> <li>また、コロナ対応に対しても組織で動いてはいるものの、どうしても担任の負担が増えている実情もあり、それがアンケート結果にも一部表れている。</li> </ul>								
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>退勤時間を意識して仕事をすることは、超過勤務時間削減の一つの方策である。それは今後も継続していく。</li> <li>また仕事の偏りに目を向け、担任業務を含めて学年や分掌での役割分担等を見直していく。</li> <li>土日などの休日の仕事量を見ると、部活動についての整理が必要である。</li> </ul>								
学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革の成果が、教育現場に確かに現れるのをもう少し待ちたい。</li> <li>子どもたちとの交流を密にしてほしい。</li> <li>部活動の種類が少なく感じる。好きな部活を選べないのは少しかわいそうに感じる。</li> <li>教職員は本来生徒の指導一番だと思う。保護者への対応は、PTAとも協力して対策を取ることも検討してはどうか。超過勤務が多いと心のゆとりがなくなるので、残業0の日があってもいいと思う。</li> </ul>								

## (6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
具体的な取組
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。</li> <li>学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。</li> </ul>

- ③ 生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。  
 「一人一人が大切にされている学級ですか。」  
 「他人を大切にしていますか。」
- ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。

## 中間評価

### 各種指標結果

- ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、  
 組織的対応に努める。 令和3年度 令和2年度  
 100% ← 89.7%
- ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。 ⇒ 紹介した。
- ③生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。
- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| 生「一人一人が大切にされている学級ですか。」 | 61.2% ← 62.9% |
| 保                      | 32.8% ← 49.5% |
| 生「他人を大切にしていますか。」       | 75.1% ← 82.8% |
| 保                      | 57.9% ← 54.6% |
- ④児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有 100% ← 92.3%
- ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。  
 ⇒学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- 教職員のいじめ防止に対する意識が上がってきている。学年会、補導部、生徒指導委員会で情報を共有した上で組織的な対応を心がけており、その成果の一つだと考えられる。
- 教育活動が制限されているため、他者と関わる機会が減ったことで、「他人を大切にしていますか」の項目が下がっている。
- 保護者に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知することにより、学校の取組・対応に対する理解が進み、協力していただけたと感じている。今後も広報に努めたい。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- 生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知らせていくことを大切にする。
- 中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。
- 教育活動が制限された中でも、他人と関わる、他人のことを考えることができる活動ができるように工夫する。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- 生徒・保護者アンケート
  - ① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」
  - ② 「他人を大切にしていますか。」
- 教職員アンケート
  - ① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。

	② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから日本を拓く大切な子どもたち、大切に育みたいですね。管理職は教職員を、教職員は生徒を、保護者は子どもを大切にする学校づくりを、より一層進めていただくようお願いします。</li> <li>・もう20年以上前ですが、嫌なことを嫌と言えず、いじめられている子を見ても知らぬ顔をするなど、以前先生に相談されても良い方向に向かず、不登校になった生徒がいました。こうした生徒とも真正面から向かい合っていただける学校づくりをお願いしたいと思います。</li> <li>・自分は関係ないと傍観することもいじめであること、誰もがいじめの当事者になり得ることを学んでほしいと思います。</li> </ul>

## 最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者に次の学校評価アンケート</li> </ul> <table> <tr> <td>生①「一人一人が大切にされている学級ですか。」</td> <td>令和3年度 令和2年度 66.3% ← 62.9%</td> </tr> <tr> <td>保</td> <td>31.9% ← 49.5%</td> </tr> <tr> <td>生②「他人を大切にしていますか。」</td> <td>77.9% ← 82.8%</td> </tr> <tr> <td>保</td> <td>48.1% ← 54.6%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート</li> </ul> <table> <tr> <td>①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。</td> <td>96.6% ← 89.7%</td> </tr> <tr> <td>②生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。</td> <td>100% ← 92.3%</td> </tr> </table>	生①「一人一人が大切にされている学級ですか。」	令和3年度 令和2年度 66.3% ← 62.9%	保	31.9% ← 49.5%	生②「他人を大切にしていますか。」	77.9% ← 82.8%	保	48.1% ← 54.6%	①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。	96.6% ← 89.7%	②生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。	100% ← 92.3%
生①「一人一人が大切にされている学級ですか。」	令和3年度 令和2年度 66.3% ← 62.9%												
保	31.9% ← 49.5%												
生②「他人を大切にしていますか。」	77.9% ← 82.8%												
保	48.1% ← 54.6%												
①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。	96.6% ← 89.7%												
②生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。	100% ← 92.3%												
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のアンケートは前回に比べどちらも改善、保護者のアンケートはどちらもマイナスである。生徒は、体育大会や各学年・学級の取組などを通して、自尊感情や生徒同士のつながりが強まつたと考えられる。一方で保護者の方は、参観などで直接自分の目で学校や我が子の様子を見る機会がほとんどなく、実感が持てなかつたことが大きいと思われる。</li> <li>・教職員は日常の観察や各種のアンケートの中で、いじめの早期発見やいじめに発展することのないよう未然防止に努めることができている。その背景には、生徒指導委員会や学年体制等の組織でいじめ防止に当たっていることが大きい。こうしたことが、教職員のアンケート結果でもわかるように、いじめ等の報告・連絡・相談に対する意識の向上やいじめを見逃さない姿勢につながっている。</li> </ul>												
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止の対応には、生徒指導部と学年の縦横双方の組織で取り組む体制を今後も大切にする。また、見逃しのない観察と早期発見、指導を心がけていく。</li> <li>・そして、自尊感情が高まる取組や生徒同士がつながる取組を一層推進し、それを学級通信や学年だより、学校だより、またホームページ等で積極的に保護者に発信するよう努めたい。</li> </ul>												
学校 関 係 者	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩む子どもが心を開いて話せる環境が大切だと思う。</li> <li>・いじめはされる者だけでなく、する者の心も蝕む。他人を認めることは、決して自分を否定することにはならない。互いに尊重し合うことは一人の人間としての成長につながる。</li> </ul>												

評 価	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒の態度をよく見ることが大切だと思う。</li><li>いじめの問題は、なかなか解決が難しいと思う。未然防止や早期発見の取組が1つのポイントになるのではないか。いじめに対する措置をしっかり認識して行動することが必要だと思う。</li></ul>
--------	---